

第1回紀の川市長期総合計画審議会 議事録

日時/会場		令和7年9月1日（月）13:30-15:00 / 本庁舎3階 庁議室
出席者	審議会	井上委員、福田委員、大西委員、谷脇委員、東委員、伊藤委員、中迫委員、加藤委員、林委員、中村委員、庄司委員、新谷委員、赤坂委員、船津委員、谷川委員、中谷委員、山田委員、青木委員、道場委員、梶川委員 欠席：佐久間委員、野村委員
	本部会	企画部：栗本
	事務局	企画経営課：東、西端、辻、森本、北山、甲佐 受託業者：現地/石堂、井上、眞鍋、オンライン/坂井
議題		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱書の交付 3. 市長あいさつ 4. 委員紹介 5. 議事 6. 閉会
資料		<ul style="list-style-type: none"> ・【資料①】第3次紀の川市長期総合計画策定方針（案） ・【資料②】市民意識調査票（案） ・【資料③】令和7年度審議スケジュール ・【資料】名簿 ・【資料】審議会委員 ご意見お伺いシート ・【参考資料】紀の川市附属機関の設置等に関する条例 ・【参考資料】附属機関の組織及び運営に関する基準を定める規則 ・【当日配布】市政報告会資料

■ 議事内容

1. 開会

※事務局より配布資料等について説明した。

2. 委嘱書の交付

※市長より審議会委員に委嘱状を交付した。

3. 市長あいさつ

【市長】

紀の川市長期総合計画は、市の総合的かつ計画的な行政運営を図るため、市の合併直後に策定した第1次紀の川市長期総合計画にはじまり、現在は第2次紀の川市総合計画に基づく取組が進んでいる。

第2次紀の川市総合計画は、令和8年度までの9年間を計画期間として、まちの将来像の実現を目指して取組を進めてきたが、この間、新たな社会情勢の変化や地域課題の表面化が進んでいる。持続可能な更なる発展のため、令和9年度からの新たな長期総合計画を策定する。審議会では、審議会委員の皆様に諮問を行い、審議をお願いする。

4. 委員紹介

※事務局より審議会委員、事務局を紹介した。

5. 議事

(1) 会長、副会長の選任について

※事務局より審議会の運営について説明した。

【事務局】

委員の皆様から会長・副会長を選任いただきたい。

【委員】

事務局案を提示いただきたい。

【事務局】

会長には伊藤委員、副会長には東委員を推進する。異議がないか確認したい。

【委員全員】

異議なし。

【事務局】

会長は伊藤委員、副会長は東委員を選任する。

【会長】

本学は紀の川市と包括連携を協定しており、学生の指導にあたってさまざまな形でご協力いただいている。紀の川市への恩返しができればと考え、引き受けさせていただいた。委員のみなさんの意見を引き出し、東副会長の力

も借りながら円滑に議事を進めていきたい。

(2) 第3次紀の川市長期総合計画策定方針について

※事務局より会議内容 (2) 「第3次紀の川市長期総合計画策定方針」について説明した。

【委員】

資料①p.5に「中学生を対象にこども未来会議も開催し、あらゆる世代の市民の意見を次期計画に反映します。」とあるが、紀の川市の未来を考えて実現のため行動することは、自分たちの問題であるという意識醸成を促す視点が必要と考えている。

【事務局】

現在、こども未来会議は、教育委員会や校長会と実施内容を調整中であり、中学生が市政に参画し、自分たちの意見が反映・課題解決につながる体験となるような内容を検討している。本日のご意見を踏まえて、自ら参画する意識醸成につながるよう開催に向けた準備を進める。

【会長】

中学生が、自分の住む地域について考え、市政に参画する意識醸成につながるような設計をしてほしい。

【委員】

現行計画策定時には、若手職員によるワークショップは実施しているのか確認したい。また、若手職員の募集方法を確認したい。

【事務局】

現行計画策定時も若手職員（有志）によるワーキンググループを実施しており、基本構想に関するまちの将来像やまちづくりの目標について、市民ワークショップとあわせて意見をいただいた。本年度中に職員を募集予定であり、積極的な参画を呼び掛けている。参加職員や内容検討後、改めて審議会にも報告する予定である。

【委員】

基本構想は、10年間ではなく、より長期的な視点で設定した方がよいと考える。現代だけではなく、先人の努力も踏まえて、本市を活性化できる基本構想、基本計画を充実させてほしい。

【事務局】

基本構想策定に向けて市民参画の機会を設け、将来像やまちづくりの目標、まちづくりの方向性を作り込んでいく予定であり、これまでの歴史や文化も加味して議論していただけるよう、市民参画の方法を検討し、策定していきたい。

【会長】

紀の川市は歴史や文化も特徴がある自治体であるため、積極的に活用してほしい。

【委員】

市政報告会での資料は、取組の進捗状況などがわかりやすく整理されており、現状を把握するため委員にも配布するのがよいと思う。

【事務局】

市政報告会の資料を審議会委員に配布する。

【会長】

第2次紀の川市長期総合計画の検証など、委員の皆様が詳細を把握いただけるよう資料の共有をお願いしたい。

【委員】

職員の本来の仕事もある中での若手職員ワーキンググループの実施は、職員の負担が大きいと思う。そのため、職員が参加しやすい環境整備やモチベーションを高めるような実施方法を検討してほしい。

【事務局】

紀の川市では、令和6年度から、若手職員が地域の課題を把握するため、若手職員のプロジェクトチームを組織し、独自研修を実施している。そのような流れも考慮しながら、自分事として参加してもらえるような実施を検討している。

【会長】

有能な職員が財産である。職員負担を配慮して参加できるようにしてほしい。

【委員】

市民アンケートの対象者を18歳以上の75歳未満とした理由を確認したい。75歳以上の意見を反映する方法を確認したい。

【会長】

市民アンケートは次の議題で回答する。

(3) 経過報告

※事務局より会議内容 (3) 「市民アンケートの実施」について説明した。

【事務局】

市民アンケートの年齢は経年比較を実施するため、現行計画策定時の年齢と同じ選択肢を設定している。

【委員】

経年比較として実施するためであることは理解したが、市民の意見を適切に把握するために、75歳以上を除外しないほうがよいと考える。

【会長】

今後、同様の調査を実施する場合は、75歳以上も対象とし、特定の方が排除されていると感じないような配慮をしてほしい。

【委員】

住民の1/3が高齢者で、高齢者が自治会等の委員を務めなくてはならない地区もあるため、現場で委員として活動している高齢者の意見を聴取できるようにしてほしい。人口減少や高齢化が進んでいる地域にも十分に配慮してほしい。

【事務局】

各地区の敬老会経由で別途アンケートを実施するなど、75歳以上の市民からも意見聴取できるよう、事務局で検討する。

【会長】

75歳以上の市民でも地域のために活動されている方もおり、高齢者からも意見を聴取して審議会の場で議論したい。

【委員】

市民アンケートの対象者は、人口の3%である2,500人となっているが、LINEやメールを活用して母数を増やすことが可能なのではないかと考えている。また、アンケート送付の際には、現行計画の冊子を同時に送付しているのか確認したい。

【事務局】

市民アンケートの調査票発送時に、総合計画の冊子は送付していない。総合計画は、ホームページ等での閲覧をお願いすることになる。また、統計学的に400名弱の回答が得られれば問題ないため、それを見据えた母数の設定としている。回答数が芳しくない場合にはSNSでの告知も検討する。

【会長】

幅広い世代の意見聴取をお願いしたい。

【委員】

高校生の意見聴取機会がないように感じているが、高校生の参画について検討しているか確認したい。

【事務局】

市民ワークショップの開催にあたり、高校生の参画を協力いただくことを想定している。また、高校生を対象とした意識調査の実施も予定している。

【委員】

市民アンケートは、年代別的人口分布を考慮して調整しているのか確認したい。

【事務局】

回答内容は、年齢等の属性に偏りが生じることは想定しているため、補正などの手法を用いることも検討する。

(4) 今後のスケジュール

※事務局より会議内容 (4) 「今後のスケジュール」について説明した。

【会長】

スケジュールに「委員の課題意識の意見聴取」とあるように、次回の会議では各委員の問題意識をお聞きする予定である。次回審議会までに、ご自身の考える問題意識を整理いただきたい。

(5) その他

※事務局より「ご意見お伺いシート」について説明した。

【委員】

現行計画冊子p.23では、基本構想の推進にあたって3つの視点が挙げられているが、「効率的で効果的な行政経営」は、企業であれば当たり前のことであり、項目にする必要はないと考えている。また、紀の川市が対応すべき課題は、地域活力・地域コミュニティの維持であるため、次期総合計画では重視してほしい。紀の川市として力を入れる点を明確にすべきであると考える。

【会長】

紀の川市の実態に即した総合計画となるよう検討する。

【委員】

長期総合計画とは「頑張れば達成できる目標」であり、市民が「達成に向けて希望を持てる目標」だと考えている。しかし、現状と目標との乖離を把握するために、毎年ローリング方式で見直しを実施することは、現状と目標の乖離が大きい場合、市民が希望を持てなくなるのではないかと懸念しているが、事務局の考え方を確認したい。

【事務局】

現行計画冊子p.8記載のローリング方式とは、毎年PDCAサイクルを回すのではなく、実施計画に含まれている取組をローリングするものである。基本構想に関わるような目標に影響はない。

【事務局】

市政報告会の資料を配布するため、ご確認をお願いする。

6. 閉会

【企画部長】

お忙しい中ご協力いただき感謝を申し上げる。市民の皆様からの意見を反映させた、令和9年度からの紀の川市のまちづくりの指針となる長期総合計画策定に向け、今後2年間、重要な役目と協力をお願いする。

以上